



各 位



平成 30 年 5 月 11 日

会社名 価値開発株式会社
代表者名 代表取締役社長 高倉 茂
(コード番号 3010 東証第2部)
問合せ先 取締役管理本部長 秋山 耕一
(TEL:03-5822-3010)

通期の連結業績予想値と実績値との差異及び法人税等調整額の計上に関するお知らせ

平成30年2月9日に公表いたしました平成30年3月期通期(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)の連結業績予想値と実績値に差異が生じたので、お知らせいたします。また、当社の連結子会社において法人税等調整額を計上することとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 予想値と実績値との差異について

平成30年3月期通期の連結業績予想値と実績値との差異(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(金額の単位: 百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想値 (A) (平成30年2月9日発表)	4,800	△200	△350	△400	△29円83銭
実績値 (B)	4,660	△321	△466	△413	△30円79銭
増減額 (B-A)	△140	△121	△116	△13	—
増減率 (%)	△2.9%	—	—	—	—
(ご参考) 前年実績 (平成29年3月期連結会計年度)	5,663	434	662	48	3円55銭

(注) 平成28年10月1日を効力発生日として、普通株式について10株を1株とする株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、「1株当たり当期純利益」を算定しております。

2. 差異の理由

当社グループは、ホテル事業をメイン事業として行っております。売上高の差異の要因は、都市型ビジネスホテル『ベストウエスタン』の業績が計画通りに推移する一方で、中長期滞在型ホテル『バリュー・ザ・ホテル』の業績が第4四半期連結会計期間においても、主要な宿泊者である震災復興関連事業従事者の宿泊需要が『働き方改革』などにより週末を中心に減少したことなどにより計画を下回ったことなどによるものであります。

営業利益及び経常利益の差異の要因は、売上高の減少などによるものであります。

親会社株主に帰属する当期純利益の差異の要因は、下記に記載の法人税等調整額の計上を含め、法人税等調整額△140万円を計上したことなどによるものであります。

3. 法人税等調整額の計上

当社の連結子会社において近年の業績動向等を踏まえ繰延税金資産の回収可能性について検討した結果、平成30年3月期において繰延税金資産を計上し、法人税等調整額△166百万円を計上しました。

以上